

## 第1回 鹿骨小学校・松本小学校 統合準備委員会 議事録（要旨）

### 【日 時】

令和5年12月5日（火）18時30分～19時30分

### 【場 所】

松本小学校 3階グリーンルーム

### 【説明内容】

#### 1 改築・統合スケジュールについて

#### 2 統合準備委員会の進め方について

- ・校名案の最終候補が決定した後、統合に向けた諸課題を検討していく統合準備委員会の役割、学校部会・PTA部会の役割を確認。

#### 3 校章の作成について

- ・新しい校章の制作は、通学帽の発注を夏までに行うために、4月頃完成を目標に進めていきたい。
- ・両校で意見を出し合い、新しい校章の素案を制作した。本日の会議での意見を基に更新したい。

#### 4 校歌の作成について

- ・校歌制作に向けて両校で検討を行っている。両校で詞の案を作成し、それを外部の作曲家に依頼をする計画。参考情報として過去の統合校の作詞・作曲の方法を確認。

#### 5 学用品の検討について

- ・保護者の購入しやすさに配慮した学用品の方向性を検討していく。

### 【意見交換内容】

#### 改築・統合スケジュールについて

○閉校式典の日程はいつ頃決まるのか。

⇒日程の確定は令和6年9月頃になる見込み。（事務局）

#### 統合準備委員会の進め方、各部会について

○新しいPTAを作ることが前提なのか。そこも含めて検討なのか。

⇒PTAのこれからの在り方も含めて検討していただきたい。（事務局）

○鼓笛隊衣装や体育大会ユニホームなどはどうするのか。そうしたものは、PTAが負担する前提なのか。区から支給することは難しいのか。

⇒区からは一部の学用品以外は支給しないため今後検討いただきたい。鼓笛隊や体育大会のユニホームは、特定の児童が着用するものになるため、区費として支出は難しい。（事務局）

## 校章作成について

- 校章に入る校名に使用する文字は、様々な字体はから検討してもらいたい。
  
- 校章はカラーでなくモノクロのイメージもある。実際に子ども達が目にするのはモノクロが多いため、モノクロでのイメージから考えていきたい。  
⇒校旗はカラーで制作した学校もある。また学校 HP 掲載はカラーになる見込み。一文字幕は金銀の刺繍が多い。(事務局)
  
- 下鎌田小は通学帽にカラーの校章が入っている。
  
- デザインの方向性として気になるのは色々な要素が重なり、複雑になったものが校章として使用していくうえで問題ないか。刺繍にしたときにどうなるのか不安がある。刺繍のイメージを考慮しながら作った方が良いと感じた。  
⇒刺繍にすることでデザインにどう影響があるかは他校を事例にして研究したい。(事務局)
  
- 既存の両校の校章は白抜き字体であるため。黒い文字だけでなく、白抜きも検討してほしい。  
⇒文字の色については検討していく。(事務局)
  
- 「鹿骨松本」という校名は2校が合体しているため、校章も既存の2つを合体した形が良いのではないか。子ども達も見慣れているため、馴染みやすいのではないか。
  
- 「鹿骨松本」の文字が一行にするのが良いのか、二文字が2つ並ぶほうが良いのか、バランス良く表示できるよう検討してほしい。子ども達が見て、自分たちの学校の校章だと認識できるものが作れたら良い。
  
- 鹿骨地域の特徴を生かすことを考えると、花というキーワードとは別に、他の会議では防災という観点もあった。川とともにこの地域で暮らして行くという意味を表現するために、川の要素を入れる考え方は良いと感じた。川の要素を入れることできれいで素晴らしいデザインになると思っている。
  
- 地域や両校の特徴を入れられると良いと思う。校章のデザインはシンプルにしていくべきだと考える。校章としての扱いが難しくなってしまうことがないよう、シンプルな要素を組み合わせれば良い。
  
- 1番はシンプルに考えることだと思い、既存の両校の校章を活用できないか。これからの検討では、既存校章のように文字を白抜きにすると馴染みやすいのではないか。
  
- 鹿骨の象徴は花であるため、花の要素は入れたい。そのうえで、松本小の松葉の要素も入れる。また、両校に近接する川の要素を入れることで、両校の架け橋になるような表現ができれば良いと思った。

○シンプルに考えるのであれば、既存の両校の校章を重ねるようなデザインを検討してはどうか。

○学校に親しみも持ってもらうためには、誇りを持てるような校章ができれば良い。

○今回意見をいただいた内容、検討事項をふまえてさらに両校で意見交換し、事務局で整理をして改めてお示ししたい。(事務局)

### 学用品検討について

○保護者が気になるのは値段だと思うが、鹿骨と松本の各学用品の価格差はあるのか。

⇒現在の販売店から聞き取りした内容では、現時点では両校で大きな開きのある学用品は無い。(事務局)

○通学帽の形はどう考えていくべきか。

⇒現製造元からの聞き取りでは、定番のパターンとしてメトロ型、ハイバック型というものがある。

今の鹿骨小はメトロ型にあたり、松本小は特殊な型になる。要望がどこまで叶えられるかは、費用や納期とあわせて製造元と相談することとなる。(事務局)

○学校として通学帽の必要性はどう考えるか。

⇒校外学習など、学校の外に出た際に児童を見分けるためには必要だと感じている。

○通学帽への校章プリントの有無はいかがか。(事務局)

⇒通学帽の校章を確認して学校を判断することは少ないが、児童は校章の位置で帽子の前後の判断をしている。

○全体の色とリボンの色は、今後のスクールカラーを決めて校帽に反映できるのか。

⇒帽子のパターンを変えることは相談が必要だが、色については生地折り合いがつけば対応が可能となると今の製造元からは聞いている。(事務局)

○今日のご意見を基に、通学帽を含めた学用品については両校で検討を継続し、次回に進捗を報告する。(事務局)

以上